

どうやってバランスとっていますか……？

増澤真実子

北里大学病院皮膚科講師

2年ほど前から始まった働き方改革によって、私の大学病院では研修医は17時以降に働かせてはいけない、当直の翌日には休暇をとらせる、カンファレンスや委員会は原則17時まで、などなどルールが改正されました。倫理講習会、医療安全講習会をはじめさまざまな講習会への出席が必須となっていますが、それらもすべて17時までに終わるような時間設定となっています。出席はほぼ不可能ですから、後から就業時間外に録画画像を視聴することになります。

仕事時間の“圧縮”が迫られている一方で、私たちの仕事量は減っているのでしょうか。高齢化もあって患者数は減少していないうえに、医学の進歩により治療選択肢はどんどん拡大して10年、20年前より圧倒的に検査、治療は煩雑化し、患者一人一人に要する労力は増大していると思います。人員が充足しているかというと、大学病院は中堅が少なく決して層が厚いとはいえない状態で、周辺地域の医療を支えるために医局員を派遣しています。仕事量が変わらない、ないしは増加しているのに、時間を制限すると医療は今後どうなっていくのでしょうか。時間を制限しただけで働き方改革は成されるのか、何かが失われたり、どこかで逼迫したりしてはいないのでしょうか。

私は“仕事人間皮膚科医”として20年ほど、ほぼ大学病院でひた走ってきました。かつてはワークライフバランスなどという概念もなく、私のまわりにはもっとすごい仕事人間ばかりでしたが、夜遅くまであれこれディスカッションしたりと、とても楽しかったのを覚えています。皮膚科学が本当に楽しいということを先人から学び、また仲間で共有する時間がたくさんあったと思います。山ほどの無駄かもしれない時間を費やして、そこから何



かを得ていました。

私はいま、若い先生たちにこの皮膚科の楽しさをうまく伝えることができているのかなと思うときがあります。仕事量不変なのに時間制限では、効率を重視するよりほかに方法がありません。ワークライフバランスの新しい時代の流れに逆らうことはできないし、ライフを重視してバランスをとることは豊かな人生を送るために必要なことです。どうするのがよいのか、答えがなかなか見出せないむずかしい問題ですが、ただこの過渡期にバランスをとるためだけに大事なものを捨ててしまわないようにしたいと思っています。